



FOA・EAST NEWS No.2

1988.8.21

緋のシャツ

日本アメリカンフットボール審判協会
理事長 笹田 英次

(1) はじめに

昭和31年に審判の卵になってから、長いような短いような30余年が過ぎ去って行きました。一体どれだけのゲームが、プレーが、プレーヤーが目の前を通りすぎて行ったのでしょうか。

その間、喜びも悲しみも、時としては怒りすらも感じた事がありました。ただただゲーム数をこなしただけで、自分自身を納得させる審判が出来ないままに今日に至りましたが、折にふれて自分の感じた事を書いてみる事によって、考えをまとめる事が出来るかも知れないと筆を取った次第です。

気楽に読み流してもらるように書くつもりですが、その中から皆さんのお役に立つヒントでもかかれていてくれればと虫のよい事を考えています。そんなつもりでどうぞ。

(2) 円形劇場

一寸夢の様な話、いや夢でなくなりつつある話なのかも知れません。四方を囲む客席に満員の観客が息を呑んで見つめる舞台、そこには緑のジュータンが敷き詰められ、日頃の稽古の成果を見て貰おうとする役者の群、これこそローマの円形劇場そのままでないでしょうか。舞台がフィールドに変わり、役者が選手に変わればフットボールゲームの始まり。

このゲームでは主役は両チーム、大舞台でヒーローとヒロインが芝居を熱演してくれます。その中に緋のシャツを着た脇役、これが審判ではないでしょうか。よく審判はプロデューサーだという人、いや黒子だという人がいますが、私は脇役であるのが一番良いと思っています。そしてレフリーは脇役のまとめ役であるのが最も適していると思分勝手に考えています。

(3) 脇役

芝居の中で主役は観客の記憶に永く残る芝居をしなければなりません。脇役はそれを盛り立てるのが仕事です。出しゃばりすぎて主役を食ったりすれば皆に嫌われますし、芝居をこわしてしまいます。喜劇ではそんな設定もありますが、真剣勝負のフットボールではそんな事は許されないでしょう。

主役のミスは愛敬ですむ事がありますが、脇役のミスはそうはいきません。それが脇役の宿命です。

オーディションをすれば主役の希望者は我も我もと殺到します。脇役の希望者は少ないものですが、逆に脇役を希望する人は己れを知っている人に多いのではないのでしょうか。

観客も主役も良い脇役を求めています。主役を引立て、目立たずにしかし確実に舞台を盛りあげ、終わってしまえば名前すら忘れられてしまう。そんな空気のようなフットボールの脇役を一度でいいから演じてみたい。

私の思い出 (2)

日本アメリカンフットボール協会
理事長 安藤 信和

当時、関東のリーグ戦は戦前の6大学で開催されていましたが、昭和31年に学習院大学が、そして昭和32年には防衛大学がそれぞれ加盟し8大学になり、急にゲーム数も増えました。審判も大忙しで、審判の増員を呼びかけるのですが、どの大学のOBもなかなか審判をやろうという人が少ない状態でした。結局、ルールが難しいからなのでしょうが、もっとも我々もあまり自信がある訳でなく、先輩が苦労して翻訳されたルールの日本語版を頼りに4人制でゲームにのぞむのですが、何でもすべてレフリー任せ、各ダウンのボールのセットもレフリー……。クリッピングや、パス・インターフェランスの位置をマークするのを忘れたり、チェーン棒がヘッド・ラインズマンの指示する前に動いてしまい、次のボールをセットする場所が分からなくなったりで困った事が多くあったと思います。またゲームの終了時には、当時、ピストルを撃って終了の時間を知らせていましたが(学校の運動会等でスタートに使う紙火薬で音を出す)、ゲーム終了1分位前にそのピストルを審

判が受取るのですが、火薬が湿っているのか、引金を引いても音がでなかったり、また反対に準備中に音がでてしまったりしてゲームが早く終ってしまった事もあったと思います。

当日審判が3人しか来なかったり、前日「急に行かれないのでよろしく御願います」と電話が入ったり、結局私が出なければならず、殆ど毎週土・日引出される事がありました。大きな失敗をした事がありました、それは東伏見の早稲田のグラウンドでのゲームで、前夜からの大雨だったので、グラウンドはとても使用できないだろうと勝手に判断し、誰もグラウンドに行かなかった事がありました。普段はフットボールの記事は殆ど載らないのに、そんな時には新聞に書かれてしまいたいへん申し訳ない事をした事もありました。

昭和34年頃に日本協会の理事長に鳥取義雄氏が就任されましたが、彼は審判に対し大変理解のある方で審判の問題については随分とお世話になったと思います。当時は理事長の御自宅で我々審判が大勢集って、米軍の審判の方々を呼び毎日のようにクリニックをして頂き、またスパイク等も米軍から譲って頂いたりしましたが、そんなことで米軍基地でのゲームにも日本の審判員も出られるようになり、現在の審判部の基礎はその時出来たものではないでしょうか。そうした基盤を下に日本アメリカンフットボール審判協会も設立され、日本協会への理事の選出母体となっております。そして現在は3人の理事を日本協会に送り出しており、日本のアメリカンフットボール発展に努力している事になります。

現在の審判は東西とも素晴らしい技術を身に付けた優秀な人材で埋めつくされていると思います。本場アメリカの審判にも絶対劣る事はないと確信しております。

最後にゲームにのぞむ審判はどんな事態にあっても常に冷静であって欲しいと思います。(終り)

韓国のフットボール

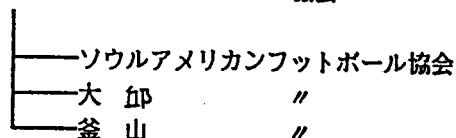
オリンピックの開催まで、あと僅かとなった韓国から、審判協会笹田理事長宛てに近況を伝えるレターが届いた。発信人の李鎔濟氏はソウル大学の教授で、文中にもある通りソウル協会の初代の理事長である。また、氏は約10年前の在日中に当関東審判部のミニクリニック等にも出席され、ともにルール、審判技術を学んだ仲間である。(尚、このレターは日本文で、本年2月に届いたものである。)

拝啓 お元気ですか。今年は非常に暖かい冬です。こちらでもフットボール競技はすべて終わりましたが、

協会の組織は大幅に改編され、躍進の第一歩を踏み出しました。これから韓国のフットボール界の現状を御紹介致します。

一. 韓国フットボール界の組織

韓国アメリカンフットボール協会



となりまして、その役割は日本アメリカンフットボール協会や都道府県アメリカンフットボール協会の役割と同じものです。変わったのは今まで韓国協会とソウル協会が一緒だったのですが、今回二つに分けて仕事を分担させたのです。それで恥ながら小生がソウル協会の初代理事長に選任されました。

二. チーム数

すべて大学チームで、その分布はソウルに7校、釜山に5校、大邱に3校です。

三. 競技大会

こちらでは競技場数が少ないため日本のように毎週週末に競技することができず、7-10日間の日程で大会が行われております。主な日程は次の通りです。

5月下旬-春季ソウル地域フットボール大会

(場所:ソウル)

春季釜山・大邱地域フットボール大会

(場所:釜山)

10月初-KOREAN-BOWL

(ソウル選抜軍:釜山・大邱選抜軍)

11月末-秋季全国フットボール選手権戦

(場所:ソウル)

1月中旬-冬季

//

(場所:釜山)

我々はソウルオリンピックでスポーツに対するムードが高まり、オリンピック後には何か新しいスポーツへの要求が生ずると期待しております。そのような考えでこれからフットボール界を整備していこうと皆が張り切っております。

そして、こちらでもアジア選手権の話が盛んに話題になっておりまして、やはりソウルオリンピック後なんとか実現させたいと思っておりますので日本でアジ

ア選手権の話がでていることは大喜びのことと存じます。フットボールの発展のために日本と韓国の両国の交流を更に広げていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

日本アメリカンフットボール協会と審判協会の皆様
によろしくお伝え下さい。岡本さんには連絡がとれな
かったことで心からお詫び致します。

敬具

1988年2月5日

李 銓 済

オフィシャル1年生

藤原 誠

大学卒業後、九州に半年、北海道に5年の間、ほとんど
フットボールに関係のない生活を送っていました。

その5年半の間にゲームを見たのはPOTATO BOWL
という北海道の学生VS社会人の試合のみ。後はTVで
のボウルゲームを見るだけの人でした。

このような私が審判となったのは、転職で関東に戻り、
参加したOB会での推薦によってでした。春のクリニック
から始り、春・秋のシーズンもすぎもう審判2年生になろ
うとしている現在、昨シーズンを振り返ってみると毎ゲーム
が仕事とは違う次元での緊張感と審判としての勉強で一杯
でした。

しかし審判になった事により、プレーヤー、スペクテク
ターとしては見えないフットボールの奥深さ、難しさ、面
白さの一面を知る事ができたと思ひます。

ゲームを行うのは、チームの選手、監督、コーチですが、
ゲームを進めるのは審判団の重要な役割であると思ひます。
まだまだ未熟な私としては、今後、公正かつスムーズなゲ
ームを進める審判のクルーとなりきれよう努力したいと
思ひます。

◆関東審判部1988年度総会報告◆

1988年度の関東審判部は恒例の春季クリニックを兼ね
て4月3日日体大で行われた。以下は、当日の総会の議事
録である。

1988年度・関東審判部総会議事録

日 1988年4月3日(日)
時 12時35分—13時20分
場所 日本体育大学・225教室
出席 在籍 125人
出席 75人
委任 26人 よって総会は成立

総会議長として水田吉春氏を選出し、以下の議事・決定
を行った。

- (1) 1987年度活動報告
当日配布された総会資料を基に1987年度の関東
審判部活動報告があった。
- (2) 1987年度会計報告
当日配布された総会資料を基に1987年度関東審
判部の会計報告が行われ、報告通り承認された。
- (3) 1988年度活動計画
当日配布された総会資料を基に1988年度関東審
判部の活動計画案が提案され、案の通り承認された。
- (4) 1988年度予算
当日配布された資料を基に1988年度関東審判部
の予算案が提案され、案の通り承認された。
- (5) 次期理事選出方法
1989-90年度の関東審判部の理事の選出方法
に関し、理事会案が提案され、承認された。
承認された案は次の通りである。
 - (a) 理事会が理事候補を推薦する推薦委員(仮
称)を選出する。
 - (b) 推薦委員は理事候補を選出する。
 - (c) 理事候補に対し部員全員の信任投票を行
い、理事を決定する。
- (6) 現理事の交代について
今期、理事であった柴山理事が福岡転勤となった為
後任として、前回の推薦時に次点であった栢下良平
氏の理事就任が理事会より提案され、承認された。

- 以上 -

◆理事会報告◆

理事 喜入 博

関東審判部の運営方針を検討・推進する理事会は、今期、栢下理事（柴山理事転勤に伴う交代）を加え9人で運営されている。理事会の審議事項は、都度、議事録として記録されているが、部員全員に対する配布は、作業量の関係で実施していない。今後、このFOA・EAST・NEWSで理事会の審議事項、決定事項を今後お知らせする。議事録は公開資料であるので、詳細を知りたい方は各理事が所持している議事録を参照されたい。

◆第18回理事会（1988年3月24日）

- ・1987年度決算報告
1987年度関東審判部の会計報告があり該内容を承認した。総会に報告、承認を受ける。
- ・1988年度活動計画策定
総会に提案する1988年度活動計画を検討し、次の様に決定した。
 - (1) 教育活動の充実
 - (2) フィールド・インストラクタ制度の充実
 - (3) 資格制度の検討
 - (4) 保険制度検討委員会の設立
 - (5) 次期理事選挙の実施
 - (6) 1988年度 ANNUAL REPORTの発行
 - (7) FOA・NEWSの発行
- ・1988年度予算案策定
活動計画に基づき、総会に提案する1988年度の予算案を策定した。
- ・日本アメリカンフットボール審判協会活動について
配布資料に基づき、日本アメリカンフットボール審判協会の活動計画の説明が喜入からあった。
- ・ルール委員会活動について
配布資料に基づき、ルール委員会の活動計画の説明が喜入からあった。

◆第19回理事会（1988年4月8日）

- ・栢下理事の担当について
柴山前理事の後を受けて総務・組織担当と決定した。
- ・1988年度関東審判部総会のレビュー
4月3日、日体大に於いて開催した1988年度関東審判部総会のレビューを行い次のように決定した。
議題、議案（総会資料）を事前に部員に配布する件を検討した。現在の関東審判部の運営年度は4月～翌3月であり、この事が事前配布を困難にしている為、今年度より運営年度を2月末日とし、議題、議案を総会開催案内時に部員に事前配布す

る事に決定した。

- ・保険制度検討委員会の設置について
総会にて提案した、保険制度検討委員会を次の様に設置した。

リーダー：小笠原、メンバー：栢下、岡本、広瀬

◆第20回理事会（1988年5月13日）

- ・クリニック関連の検討
ルール・セミナー、および箱根クリニック、ミニ・クリニックの報告、検討を行った。
- ・保険制度の検討
5月10日に開催された保険制度検討委員会（栢下、小笠原、岡本、広瀬の各氏）の報告があり、今後の方針を検討した。

◆第21回理事会（1988年6月8日）

- ・ジュノスポウル報告
6月5日札幌にて開催されたジュノスポウル（桜井、笹田、小笠原、塩崎の各氏が派遣された）の報告が小笠原理事、笹田理事長よりされた。
- ・保険制度検討委員会からの報告。
保険制度検討委員会からの報告を基に検討し、死亡200万円、入院1日3000円、通院1日2000円の保険に入ることとした。
- ・新人クリニックの内容・担当を検討した。

◆第22回理事会（1988年7月9日）

- ・新人クリニックの実施結果について
6月に開催した2回の新人クリニックについての報告があった。各回ともに6人づつで例年より少なかった。特に社会人からの選出は1名のみであった。
- ・8月クリニックの内容の検討をした。
- ・今年、新調するバッグの検討を行った。
- ・秋季のスケジュールの大枠を検討した。今年も要員のに厳しい。
- ・現在、日本アメリカンフットボール審判協会のメカニックスの基本となっているメカニックス・マニュアルの改訂を行うことが検討され、CCA1988版を取入れるよう関西側に提案することとした。

以上

FOA・EAST・NEWS NO. 2

日本アメリカンフットボール審判協会
関東審判部・機関紙

発行：1988年（昭和63年）8月21日

連絡先：TEL 03-371-3670